



1 学期終了まで3週間になりました！

4月の始業式で、新しい仲間と出会ってから3か月が過ぎ、気が付けば1学期の終業式まで、残り3週間になりました。

振り返れば、1年生は、5月に青少年海洋センターで宿泊体験をしました。みんなで力を合わせて漕いだカッターボート体験や美味しいカレーを作った野外炊飯など、楽しい思い出として残っていることでしょう。2年生は、何と云ってもクラブ活動です。新しい1年生を仲間に入れて、引退が近づいている3年生を見習い、いつもクラブ活動の中心にいて頑張ってくれました。そして3年生。4年ぶりに復活した沖縄への修学旅行は、平和学習を中心に据えた素晴らしい学びとなりました。みなさん。本当によく頑張ってきたと思います。



最高の沖縄修学旅行でした！

3年生が6月10日(月)から12日(水)まで行った沖縄への修学旅行で感動した場面を順番に紹介します。

初日は、沖縄へ向かう飛行機が離陸する瞬間に小さな歓声が上がりました。機内アナウンスで、田尻町立中学校が修学旅行で飛行機に乗っていることを紹介され、素晴らしい旅行になりますようにと願っていただきました。系数豪というガマに入り、79年前に繰り広げられた悲惨な状況を教えてくれた案内人の方から、「素敵な子どもたちです。案内できて嬉しく思いました。今日は、私自身がいつもとは違う系数豪を感じる事ができました。」とってくださいました。語り部の上原さんから、「素晴らしい生徒さんたちです。最高の唄のプレゼントをありがとうございました。私もみなさんから、逆に元気をもらいました。」とってくださいました。平和記念公園で、生徒会代表の さんが平和の誓いを読



み上げ、千羽鶴の奉納を行い、みんなで黙とうしました。ホテルでは、お腹いっぱいになるまで、夕食バイキングを楽しみました。その夜は、クラスごとに集まり開く会で語り合いました。

二日目は、ひめゆり平和祈念資料館で、ひめゆり学徒隊の方々の生々しい手記を読みました。語り部の久高さんから米軍機の事故についてのお話を聞いて、沖縄タイムスの新聞記者の方から取材を受けました。語り部・照屋さんの案内で、米軍基地のある町を歩き、米軍兵の住居やそこで暮らすアメリカの人たちと出会いました。バスガイドさんが、沖縄戦の悲しみを伝える「島唄」を生で歌ってくれました。浜比嘉島リゾートホテルの展望風呂を堪能した後、美味しい夕食バイキングに舌鼓を打ちました。夕べの集いクラス対応レクリエーション大会で大いに盛り上がり、みんなが一つになりました。

三日目は、雨雲を気合で追いやってバナナボートや砂浜遊びなどのマリン体験ができました。かわいいヤドカリが遊んでくれました。那覇市国際通りでは、班別自由行動で好きなお昼ご飯を食べて家族や先生方へのお土産を買いました。那覇空港までモノレールの「ゆいレール」で揺られて行きました。関西国際空港に無事に着陸できました。校舎の電気でもかりをつけて、多くの先生が帰りを待っていていました。たくさんの保護者の方々が、遅い時間にも関わらず、お迎えに来てくださいました。

平和な日本の大阪で、大家族としてのぬくもりが感じられる田尻町で暮らせていることに感謝しました。



感動の連続の3日間でした。最高の沖縄修学旅行になりました。この素晴らしい伝統を守って行きたいと願っています。

合同避難訓練(こども園・小学校・中学校)

6月17日(月)に、地震津波対応の合同避難訓練を行いました。南海トラフ大地震による津波に対応するための避難訓練を小学校と中学校の校舎に分かれて行いました。田尻中学校の生徒は、運動場に避難するまでの時間は2分16秒でした。田尻町に津波が到達するまでの時間が約80分の想定なので、認定こども園エンゼルの0歳から3歳児を中学校の校舎の3階まで避難させるのに、中学校の教職員が協力する訓練をすることができました。



ウォータークーラーを設置しました！

PTA費で購入したウォータークーラーが届きました。梅雨が明けたら急激に気温が上がってくるので、熱中症を防ぐためにも水分補給はしっかりしてほしいと願っています。クラブがある日は、水筒のお茶だけでは足りないこともあるでしょう。そんな時に、気軽にウォータークーラーを利用してほしいと願っています。設置場所は、体育館に近い校舎の運動場側出口付近です。



「ウォータークーラーの水は、甘くて美味しい気がします。」3年生の さんと さんの感想より

今後の予定

7/2(火)	(木)の時間割 【2年生】全国体力テストオンライン入力	
7/3(水)	【1年生】午後:水泳実習(~5(金))	
7/8(月)	【2年生】午後:水泳実習(~10(水))	
7/11(木)	水泳実習予備日	
7/12(金)	1学期 給食最終日	
7/16(火)	期末三者懇談(~18(木)) ※1	
7/19(金)	1学期 終業式	
7/22(月)	夏季休業開始	
8/6(火)	全校登校日	
8/13(火)	閉庁日(~15(木)) ※2	
8/26(月)	2学期 始業式(給食なし) 【1・2年生】課題テスト(2教科) 【3年生】学力診断テスト①(2教科)	
8/27(火)	2学期 給食開始 【1・2年生】課題テスト(3教科) 【3年生】学力診断テスト①(3教科)	

※1 中学校の懇談会は生徒・保護者・担任の三者で実施します

※2 閉庁日は休業日となります

沖縄を知り、自分事として平和をつなぐ

南国の日差し、高くそびえるソテツの木。

透き通ったサンゴ礁の砂浜、距離を増すごとに深みを増す海の青。

マンゴー、シークワサー、ドラゴンフルーツ、パイナップル、さとうきびを代表とする自然のめぐみ。

沖縄そば、サーターアンダギー、ゴーヤーチャンプルー、タコライスなど、広範囲にわたる交易の中で発展した沖縄独自の食文化。

三線・カチャーシー・エイサー・琉球舞踊など、貴族や民衆がその季節の行事や親族や地域の祝い事を華やかに浴えた音楽文化。

家を守るシーサーと石敢當(いしがんとう)が飾られた風通しの良い住居はゆったりと落ち着ける雰囲気があふれています。



…沖縄は、私たちが暮らす大阪とは大きく違った輝きを放ち、とても魅力的な場所です。沖縄への観光客は年々増加しており、2023年度は前年度比10.6%増の726万9000人に達しました(日本経済新聞5/2付)。多くの方が沖縄に魅了され、「また行きたい!」という気持ちにさせてくれます。

沖縄県は非常に魅力ある地域の一つです。その魅力の背景には沖縄の歴史が大きく関わっています。そして、現在の「沖縄の姿」についてより深く知ることができます。

実は、田尻中学校が修学旅行の行き先としているのも、沖縄の根底にあるものを学び、感じ取ることを目的としています。今回は沖縄の歴史を少し掘り下げて考えたいと思います。

15世紀に沖縄を統一した琉球王国。当時、室町時代の日本とは違う国。当時の中国・明には従う形で貿易を行い、日本を含むアジア諸国には各地の名産品を中継する形で交流しました。

江戸時代になると、幕府は琉球に従属を求めます。幕府は、将軍が代わるごとにそれを祝う「慶賀使」を、そして琉球の王が代わると、琉球支配のお礼に「謝恩使」を江戸に遣わせました。経済的負担を負わせ、幕府に反抗する力を持たせない政策です。

明治時代には、琉球王国を日本に取り込みます。政府は軍隊を出動させ沖縄を取り囲み、琉球王国を廃止し、「沖縄県」設置を強行します。沖縄の経済圏や軍事的な利点を獲得するねらいがあったと考えます。

そして、太平洋戦争において、沖縄への低い扱いは最も顕著でした。

1941年の真珠湾攻撃による開戦から、たった半年で太平洋の大部分を占領した日本でしたが、豊富な資源や経済力を持つアメリカは、徐々に反撃に転じます。サイパン島、硫黄島を占領され、本土にも空襲が頻繁となる。しかし、沖縄にはアメリカ兵が上陸して住民を巻き込んだ地上戦が展開されたのです。

米軍が次に向かうのは「沖縄」であることは、日本にもわかっていました。そこで、第32軍を沖縄に派遣します。軍に求められたのは「日本本土への上陸を少しでも遅らせるため沖縄の戦いを長引かせること」でした。55万人という米兵に対し、10万の日本兵。戦力消耗を控えて銃撃で迎え撃つことはせず、「ガマ」と呼ばれる地下壕に隠れて戦うこととなりました。

米軍の進行によって日本軍の南部への撤退が続き、住民と共用するガマ、あるいは住民が追い出されたガマもありました。その過程で、アメリカ兵につかまって捕虜となることをおそれ、集団死が起こったガマも多くあります。

日本の犠牲者は18万人です。うち12万人は沖縄の人です。県民の4分の1の方が犠牲となりました。

6月23日は「慰霊の日」とされ、追悼の一日となります。



(平和の礎前で手を合わせる遺族)

「日本を守るためには、沖縄が犠牲になっても仕方がない…」という考えは、当時から政府・国民が持っていたと思われます。

それは今も続いています。

米軍基地の存在です。日本にある基地の70%は、沖縄県に集中しています。敗戦後、米軍の占領を受けた日本は、戦後の復興を進めていく中で、「国民の中から基地反対運動が各地で起こりました。日本が独立を果たして以降、基地はどんどん沖縄に移動していったのです。

沖縄戦の悲劇と現在の基地問題の現状。普天間基地の代替地・名護市辺野古の基地建設反対に座り込みを続ける住民と、同じ県民である沖縄県警察とのみみ合うシーンの心苦しきは想像を絶するものがあります。



長い歴史の中で、日本が沖縄に対してどのように接してきたか、感じ取っていただければ幸いです。

6/18、大阪の社員が沖縄戦の写真をカラー化して紹介する取り組みを新聞記事で見ました(右写真。読売新聞 夕刊)

風化する戦争体験

を少しでも「自分事として」継承するために活動なさっているそうです。



また、6月23日には沖縄全戦没者追悼式典では、男子高校生が平和への決意の詩の中で「79年、祈り続けても足りないのであれば、僕らが祈りをつなぎ続けよう」と強い決意を述べています。

世界中が平和だとは言えない現在。平和や安全が脅かされている人が日本の内外にいる事を強く意識し、寄り添っていく必要があります。

「自分事」として捉えることが平和形成の大きな一歩だといえます。

(教頭 横井武志)